

演劇の夢を持ち続け、現在は、朗読会などで活動されている中村享郎さん。演じる作品を損なわないよう、妥協のない演出には、演劇への熱意を感じます。そんな中村さんに夢から現在に至るまでを語っていただきました。



人生は役を生きる… 舞台上役者をやると、そのことが解ります

No.282

あつお
助政自治会 中村 享郎



お芝居は、
自己表現・自己実現への挑戦。

昭和49年、東京の劇団付属の俳優養成所を卒業して入団しました。私は高校時代、徳山市民会館で新劇を観始めました。そのことが演劇を志すきっかけの一つであったと思います。今は亡き多くの名優さんを観ました。劇場の生の舞台上で表現される世界に大きな感動を持ちました。

入団した劇団は、当時の高校も演劇鑑賞が盛んな時代で、年間300の高校を巡演していました。移動しながら2ステージの日が2週間続いたとき睡眠時間は4時間弱だったと思います。劇場公演もありましたが、ほとんどが体育館を劇場にしている上演で、睡眠不足で色々ありましたが、良い思い出です。

28歳の時プロでやっていく厳しさ、田布施の家のことを考えて帰郷しました。

平成20年頃に知人から、せっかくだから田布施で演劇をしたらとアドバイスを受けて、自分の中で忘れようとして忘れられなかった演劇の心が、劇団「田布施座」の旗揚げとなりました。2年後、町老連の行事で1時間の芝居を頼まれて、大衆演劇っぽい構成で上演しました。西公民館

が満席でした。

今から3年前、たぶせ桜まつりで商工会館を田布施座にということ、山口大学の演劇部と付き合いが始まり、その後、県内のプロの劇作家や社会人演劇の方とネットワークが広がり、その関係でテレビCMに出たり、文化庁委託事業の演劇大学にスタッフで就いたり、他劇団に出演したりして周辺地域の演劇状況も認識できるようになりました。

歌や踊りや演奏などは多くの人が活動しているのに、お芝居が少ないのはなぜでしょうか。一つの作品を作るのにかなりの時間がかかります。公演が終われば、またその同じ芝居をやらない限り台詞も忘れまです。定期的に公演する場合、新しい作品で観劇してもらいます。手間をかけ舞台の上演で完結するお芝居は、自己表現・自己実現への挑戦で、それが魅力でもあります。

最近田布施図書館で朗読会を昨年12月に開催させて頂き、2回目を6月に暗唱劇「走れメロス」を上演します。私も若くはありません。田布施で演劇をやってくれる人を育てたいと願っています。

右上ロゴ…生涯学習のマスコット「マナビイ」

デザイン…右ノ森章太郎



二十歳を 迎えて

竹内 理咲子

この1月に、晴れて成人式を迎えることができ、両親をはじめ、ご指導いただいた方々に感謝しています。

私は、小学生から高校生までの12年間、バレーボールをしていました。中でも、高校での3年間が一番心に残っています。

中学生までは当たり前のようにコートに立っていた私でしたが、高校では3年生になってもコートに立てない日々が続きました。何をして上手くいかず、チームの仲間のやる気に圧倒されるばかりで、コートに入ることさえ恐れるようになりました。

そんな私を救ってくれたのは、顧問の先生の言葉でした。同級生と私を前に、「自分だけが辛いと思うな。周りの皆も辛いんじゃないか。」と私に言われたのです。同級生が皆、涙を流していました。

辛かったのは私だけでなく、皆辛かったということに初めて気づかされたのです。

「あと少しで引退試合、このままじゃいけない」と強く思うようになり、人一倍努力をしました。その気持ちが先生方や仲間に伝わり、最後の試合でピンチサーバーとしてコートに立つことが叶いました。初めて全員が同じ気持ちになれたと思え、全員バレー全力バレーをしていると感じた瞬間でした。

厳しく愛情あふれる先生をはじめ、最後まで心配してくださった先輩や後輩、ずっと私を待ってくれた同級生の仲間、見守ってくれた父母、たくさんの人に支えられた高校バレーは、私の大切な宝物です。

現在、私は地元の施設で介護福祉士として勤務しています。実際に現場で働いてみると、教科書通りにいかないことばかりですが、そんな時こそ高校バレーで培った経験を生かしたいと思います。自分だけでなく周囲を見渡し、大人として、また社会人として、自覚と責任をもってがんばっていきたいと思います。



No.176

サークルスケッチ

麻里府ミュージッククラブ (麻里府公民館)

- 講師 伊藤 敏彦
- 日時 毎週金曜日
午後8時～午後10時
- 場所 麻里府公民館 会議室
- 代表者 黒田 芳和



私たちのグループは、その名も通称MMC（麻里府ミュージッククラブ）、かれこれ四十年ぐらいの年月カラオケひとすじに活動しております。

現在メンバーは、伊藤先生を含め13人、はっきり言って老男老女平均70才直前？ですが顔も若けりや歌声も若いと皆さんに言われております。

雨にも負けず風にも負けず雪をも払いのけて毎週金曜日夜に麻里府公民館に集まりて歌い続けております。月にひとつの課題曲をマスターするのが掟です。創設当初初めて習った「かしこい女じゃないけれど」から最近の「情恋歌」まで延べ400曲余り、日本のカラオケの歴史とMMCの歴史は一緒です。たとえカラオケ文化は消えても、私たちは歌い続けているでしょう。習った歌ならどんな歌でも直ぐに口に出せると全員豪語しております。年間を通して町内の発表会、敬老会、文化祭等のステージに率先して出演しております。

若かった時代には、老人ホームなど慰問にも出かけておりましたが、最近は我々が老人となり控え

ております。また年一回程度、各地の温泉をめざしてバスツアーなどで楽しんでおります。

皆さん今やファミリ一同然ですが、こころで新しい血を入れたい願望もあります。町内の皆さん、MMCにいられてカラオケを楽しみませんか。お待ち申しております。

